

研究・調査報告書

報告書番号	担当
298	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Prevalence of the metabolic syndrome in men and women with alcohol dependence: results from a cross-sectional study during behavioural treatment in a controlled environment.</p> <p>アルコール依存の男女における内臓肥満症候群の有病率：行動療法期間の制御された環境下における断面研究</p>	
執筆者	
Kahl KG, Greggersen W, Schweiger U, Cordes J, Correll CU, Ristow J, Burow J, Findel C, Stoll A, Balijepalli C, Göres L, Lösch C, Hillemacher T, Bleich S, Moebus S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2010 Nov;105(11):1921-7.	
キーワード	
内臓肥満症候群、行動療法、断面研究、アルコール依存	
要 旨	
<p>目的： 飲酒する男女のメタボリックシンドローム(MetS)の有病率は文献間で一致しない。本研究の目的は、コントロールされた環境のもと禁欲的な状態にいるアルコール依存と診断された患者における MetS の有病率を、北ドイツの似たような地域でプライマリケアをうけている対照群と比較することである。</p> <p>方法： コントロールされた環境で認知行動療法中のアルコール依存の男女 197 人を、北ドイツの同様の地域でプライマリケアを受けている 1,158 人と比較した。米国心臓協会/国立心肺血液研究所 (AHA/ NHBLI) の基準を用いて、MetS の個々の構成要素の有病率を両群について求めた。</p> <p>結果： MetS 有病率は対照群に比べ、アルコール依存の男女の方がほぼ 2 倍高かった (17.0%対 30.6%)。個々の基準については、男女ともに空腹時血糖値と血圧で上昇がみられ、女性のみトリグリセリドで上昇がみられた。HDL コレステロールはアルコール依存の男女で高かった。</p> <p>結論： われわれの結果から、MetS 有病率の増加、血圧上昇、血糖や脂質代謝のコントロール不良がアルコール依存者でみられた。高 HDL-コレステロールに心保護効果があるかは、この文脈では疑わしいままである。</p>	